

腎癌研究会法人化について

腎癌研究会は2019年8月より任意団体より一般社団法人へ移行いたしましたので報告いたします。

腎癌研究会は、1987年に腎癌研究会の前身である、腎癌懇話会として産声を上げました。当時はまだ腎癌治療薬も少なく治療に難渋する日々でしたが、そのような中で腎癌を熱心に研究する数名の医師が集まり、腎癌の診断・治療について熱く議論する会でした。その後、腎癌研究する医師の輪が広がり(腎癌オタクとも人は言う)、1991年に腎癌研究会が設立されました。

腎癌研究会は学術集会の開催に加え、会報誌の発刊、多施設共同研究、市民公開講座の実施、海外との交流など幅広く、精力的に活動を推進してまいりました。また、会員数も600名近くまで増え、組織も年々大きくなってまいりました。このような背景の中、腎癌研究会は今まで通り任意団体として活動するのではなく、社会的信用性のある法人格を所有し、あわせて学会化すべきではないかという意見が出てまいりました。2012年には将来計画委員会を立上げ、法人化及び学会化について将来計画委員会を中心に運営委員会、世話人会の中で議論してまいりました。

その中で、学会化については時期尚早と判断し、引き続き検討していくことになりました。一方、法人化については団体として社会の信用力が増し、腎癌研究会のプレゼンスが明確になるという点で是非、法人化すべきということで意見がまとまり、2017年第2回世話人会にて、一般社団法人として法人化とすることが承認されました。そして、税理士事務所の指導のもと、法人化に向けて準備を進め、2019年5月に一般社団法人腎癌研究会が誕生しました。

事業は年1回の学術集会、会報誌の発刊、多施設共同研究などをこれまでと変わらずに推進していくとともに、法人として新たに会員皆様に有益となる事業を考案し実行すべく、現在、理事会を中心に検討しているところです。腎癌研究会は、一般社団法人として今まで以上に会員の皆様に有益となる事業を推進し、腎癌診療の発展に大きく寄与してまいりたいと存じます。

今後とも会員、関係者皆様のご理解、ご協力のほど何卒よろしく願いいたします。

2019年10月吉日
一般社団法人腎癌研究会
会長 篠原 信雄